富嶽雲烟之図　一幅

【所　在　地】鹿児島市城山町４－36　鹿児島市立美術館
【種　　別】県指定有形文化財（絵画）
【指定年月日】昭和 42 年３月 31 日

江戸時代，薩摩の高名な画家木村探元（1679 ～ 1767 年）の 75 歳の時の作で，縦 128cm，横 237cm の水墨画。用紙は大壁紙。探元の作では，最大のものであろう。

紙中左寄りに富士の山頂をおき，右に長くすそ野をひき，雲烟の間に望む夏の富士の景観で，近影には何も描かれていない。探元の絵画は，狩野派の伝統的な流れの中に，雪舟，秋月などの水墨画の気分を盛り込んだもので，全体に質実剛健の気風を持ち「富士山図」とともに「富嶽雲烟之図」はそのような画風を伝えた代表作であろう。

落款は，「癸酉夏日，三暁菴静隠老翁，◆◆　七十五歳」

探元の描く絵画は，山水画にとどまらず，花鳥画，人物画と多岐にわたり，作品は多い。優れた門人も多く，探元を中心とする画派が江戸時代の薩摩画壇を代表するものとなった。

画家探元は，延宝７（1679）年鹿児島城下の平之馬場，甲突河畔に生まれた。姓は木村，名は時経，通称は村右衛門，画を小浜常慶に学んだ後，元禄 16（1703）年江戸に出て狩野探信に入門。宝永４（1707）年鹿児島城内の天井画などを描き，更に京都の近衛家や禁裏（宮中）において絵画を描き，近衛家より大弐の呼名を賜った。明和４（1767）年 89 歳で死去した。